

第 49 回関東ブロック乳児院研究協議会

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
第 49 回関東ブロック乳児院研究協議会実行委員会
〒221-0844 神奈川県横浜市神奈川区沢渡 4-2

助成事業の概要

国が掲げる社会的養護の課題と将来像への取り組みを受け、家庭的養護の推進として施設の小規模化、養育単位の小規模化など、各都道府県が平成 27 年度を始期とした計画を立てるスケジュールとなっている。

これにより各施設は現状の体制から小規模化の体制へと移行することとなるが、乳幼児の生活と命を守るために、今後の職員体制をどのように考えていくか、また乳幼児の健やかな心身の発達のために身に付けておかなければならないスキルとして、アセスメントの方法や乳幼児期の口腔機能の意味などを学ぶことテーマに、職員一人ひとりの資質向上を図ることを目的に開催した。

○開催期日：平成 26 年 6 月 12 日（木）～ 13 日（金）

○会場：横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

○内容：●1 日目 (1) 基調報告

(2) 基調講演

●2 日目 (1) 研究部会

①「小規模グループケアの諸課題」

②「養育の質の向上とアセスメント」

③「子どもの摂食・嚥下機能と発達」

のある乳児や虐待児が多くなり、より専門性を高めていかななくてはならなくなっている。

また、社会的養護の課題と将来像への取り組みを受けて、特に小規模化の理想は大事ではあるが、現状の職員体制では非常に厳しく、その理想を現実的に展開するには、検討する時間や方法がとても大事なプロセスとなる。

そのような中、今回の主に施設長を対象にした研究部会では、すでに先行した実践を展開している施設事例を取り上げ、施設長の立場として、取り組むべきポイントや、実際に行った勤務時間の見直し、職員加算等の考え方など、今できることや、段階的に取り組まなければならないことなど、今後に活かすべき講義内容となり、それを受けて、それぞれ個々の乳児院で考えなくてはならないこと、都県内の乳児院組織や施設長会議などの中で取り組むべきことなどの課題整理のきっかけとなった。

また、職員の資質向上を目的とした研究部会では、乳幼児の心身の発達を促すために、一人の職員（担当者）として、またチームワークで取り組むことについてなど、様々な視点を持ち合わせ、アセスメントを行い、包括的な対応と関わりを持つことを考える機会となった。

また、障害のある乳児などについては、摂食障害などもあり、乳幼児期の食の大切さを改めて感じたという声や、保育や療育とは違う視点での講義であったため、業務を行っていくうえでの気づきを得た、という声、そして、うまく食べられない原因は介助者（職員）にもあると感じたなど、職員としての日々のかかわりの中で、より良い資

事業の成果

近年における乳児院に入所する乳児等は、障害

質向上になるための講義であった。

このように、階層別にテーマを設けて研究部会を行ったことで、開催要綱の目的にある乳児院における幼い「命」を守るための職員体制の確保と保障、そして「あたりまえの生活（一般的な家庭で営まれるであろう子どもと保護者の生活）」に近づけるための取り組みを実現させていくための研究、検討の一助として開催できたことは、今後の乳児院の運営に対する成果があった研究協議会であった。

成果の広報、公表

本研究協議会は、基調講演ならびに各研究部会の講師による講義内容については、テープ起こしを行ったほか、各講師の資料もすべてデータ化し、CD-ROM 版として制作を行った。

これについては、報告書として関東ブロック内の各乳児院に配布したほか、同ブロック内の都県政令市・中核市行政所管課ならびに同ブロック内各児童相談所、同ブロック内都県政令市社会福祉協議会にも配布を行い、本研究協議会の内容を情報提供するとともに、取り組まれた内容の情報共有を図った。（配布先：関東ブロック内乳児院 51 か所、所管行政 19 か所、所管児童相談所 72 か所、関東ブロック内都県政令市社会福祉協議会 18 か所）

また、本会が主催となったこともあり、本会機関誌「福祉タイムズ」県社協のひろばにおいて、研究協議会の開催記事を掲載し、県下の社会福祉法人や関係機関・団体などに配布した。（発行部数：2 万 3 千部、配布先：県下民生委員児童委員、社会福祉法人・施設、行政機関、県内福祉団体、公立高校等）

今後の展開

今回の研究協議会の開催を受け、神奈川県乳児院施設長会では、今後の小規模化に向けて、アセスメントを軸にしたこれからの人材育成を重点においた研修企画を立てている。具体的には、施設職員を中心とした勉強会において、小規模化となった際に職員一人ひとりが、また職員チームとしてもどのようにアセスメントを立てていくのか、またアセスメントを確実に機能させるための仕組みづくりなどをテーマに実施している。

また、全国乳児福祉協議会では小規模化に対応するための人材育成の指針が打ち出され、特に新任、中堅職員の資質向上を目指し、全国の各ブロックがその準備に取り掛かっている状況となり、全国的にも理解困難で、対応の難しいケースが増加している乳児院の現状を踏まえれば、アセスメントの必要性和重要性はこれまで以上に強調されなくてはならず、乳児院はアセスメントが適切に行われるよう体制の充実と職員のアセスメント力の向上に努める必要があることから、その先駆けとなった本研究協議会となった。